直腸がんに対する ロボット支援下手術を開始しました

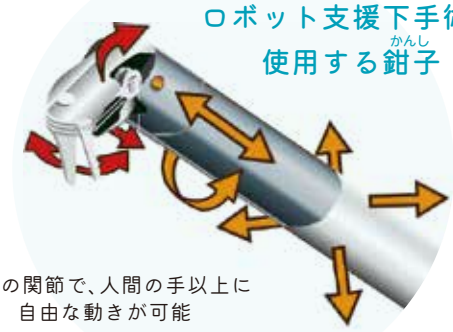
外科副部長
竹之内 信

当科では2024年3月より直腸癌に対するロボット支援下手術を開始しました。

直腸は骨盤という体の奥深くの狭いトンネルの中にあり、直腸癌に対する手術はその暗く狭いトンネルの中を掘り進むような手術です。当院ではこれまで多くの直腸癌手術を腹腔鏡下に行なってきましたが、高性能の手術用カメラを用いることで開腹手術では十分に観察することができなかった骨盤の奥深くを明るく拡大して観察できるようになり、開腹手術の時代には考えられなかったような細やかで正確な手術を行うことができるようになりました。

腹腔鏡手術では鉗子という長い棒状の器具を術者が直接手で動かして手術を行うのですが、手ぶれや、鉗子が曲がらないために思い通りの位置に鉗子が届かないなどといった欠点もありました。

ロボット支援下手術では、たくさんの関節があって自由自在に動くロボットの鉗子を術者が操作することにより、術者の思い通りに正確に鉗子を動かせるようになるため、これらの腹腔鏡手術の欠点を解決し、さらなる安全性の向上や合併症の低下が期待されます。



ロボット支援下手術で使用する鉗子

複数の関節で、人間の手以上に自由な動きが可能

触覚がないなどロボット特有の注意点も存在しますが、当院ではすでに泌尿器科・婦人科で多数のロボット手術を行った実績があり、手術室看護師・臨床工学技士・麻酔科医の協力により安全に症例数を積み重ねています。

地域に根ざした医療機関として高度な医療をみなさまに安全に提供できるよう努めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。